

即命子辛子月 書林西山堂執

YAW
OF
INTELLECTUAL
IMPROVEMENT.

*
學問之表

小川為命纂輯 味軒

二
星
九

4123
1

小川爲治纂輯

初帙

WAY
OF
INTELLECTUAL
IMPROVEMENT.

學問之法

明治七年七月 書林西山堂梓



學問之法序



余嘗在西京承乏於學務之末拮据
盡力於學校教授之方法討論施
愛頗詳悉焉大意曰謂學之要有
九曰辨識要旨曰確立標準曰用心
精密曰覃思理義曰擇所讀書曰



學問之法

序

正心脩身曰聞知達材曰健康身
曰施行實事凡此數者能循身叙
而得其方則可以期其成器也今茲
有徵命至東京修之種月子錫
出此書為序既而書肆某公屬來
促之曰本文刻已成唯欠一序而已乃

披閱之其說一一昇愚見符而更加
詳密矣余拍案曰善哉初學一
徒先驟讀此書而後入學則庶幾
不失其序與方而大成其器亦非
難也墨為序

明治七年七月念二日識於東京

卷浩讀庖南摩經紀



學問之法

而凡例
 一此書ハ愛薩克^{アイザック}魯德^{ルード}ノ所著「インプルイブメン
 モ、ヲフ、ゼ、マイン」ドヲ本トシ其ノ他諸書ヲ網
 羅蒐輯シテ苟モ學者ニ資益アル者ハコレヲ
 記載セザルコトナシ因テコレヲ顔シテ學問之
 法ト云フ
 一初ニ諸學科ノ概意ヲ撮スルハ則チ學者ヲシ
 テ其ノ好尚ニ從ヒ以テ向往ノ途ヲ定ムル
 所以ナリ次ニ剛毅ノ徳ヲ序スルハ則チ學者

ヲシテ其ノ耐久ノ心ヲ堅シ以テ終始ノ全キヲ
得セシムル所以ナリ次ニ注意及ビ經驗ノ事
ヲ記スルハ則チ學者ヲシテ其ノ粗率ノ氣ヲ
脱シテ以テ實際ノ益ニ熟セシムル所以ナリ
次ニ思想及ビ討論ノ說ヲ載ルハ則チ學者ヲ
シテ其ノ的實ノ理ヲ認テ以テ運用ノ術ヲ諳
ゼシムル所以ナリ次ニ讀書ノ方法ヲ述ブル
ハ則チ學者ヲシテ勞力ヲ用ルル簡約ニシテ
而メ成達ノ功ヲ收ルル速ナラシムル所以ナ
リ次ニ學者ノ自ラ修ル所以ヲ論ズルハ則チ

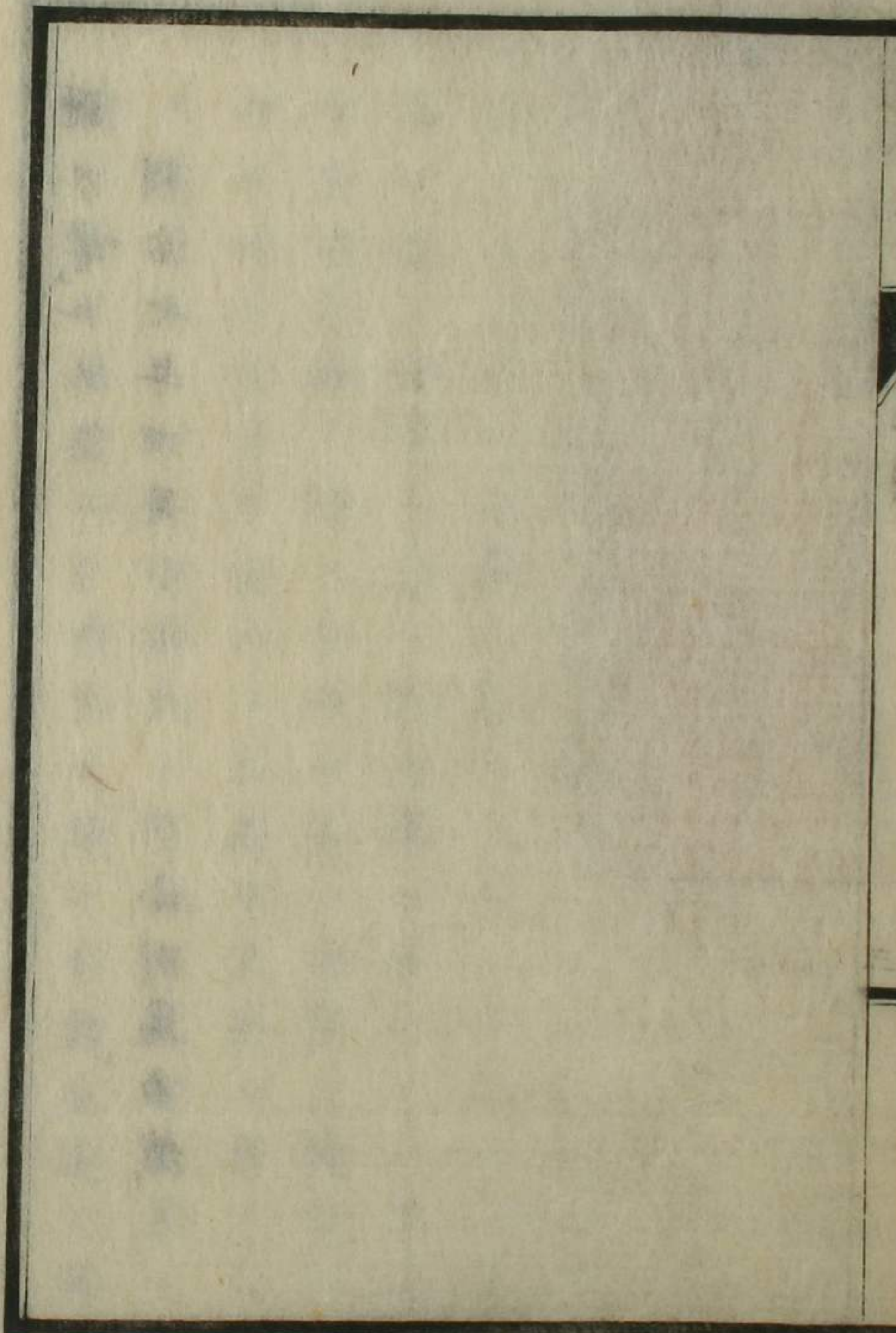
學者ヲシテ名利ノ妄念ヲ斷テ而メ安心立命
ノ處ニ止ラシムル所以ナリ終ニ父母ノ職分
及ビ師ノ儀範ヲ示スハ則チ學者ヲシテ已ニ
身ニ得ル所ノ者ヲ以テコレヲ後ニ及ホシク
ク人道ヲ盡シテ而メ天職ヲ完クセシムル所
以ナリ蓋シ學者此書ヲ以テ其ノ詭玩伎戲ノ
時ヲ減ゼハ庶幾ハ達徳成材ノ道ニ於テ裨益
スル所アラシク
一何等ノ人ゾヨク問學ノ準則ヲ輯テ而メ學人
ニ成達ノ道ヲ示スト謂フ者ハ蓋シコレ僭越

ノ人ニ非レバ則チ愚妄ノ徒ナリサレ凡其ノ
 所為亦コレヲ真實ニ他人ノ美ヲ成ント欲ス
 ル心意ヨリ出ル者ト謂ハザルベカラズ故ニ大
 方君子或ハ其ノ心意ヲ察シテコレヲ容ル、
 者アラシ苟ニ心意ヲ察シテコレヲ容ル、者
 必ズ其ノ僭妄ノ罪ニ於テ縱ス所アラン僭妄
 ノ罪尚且^ホ縱ス所アリ必ズ其ノ文字ノ蕪穢ナ
 ルヲ以テコレヲ棄ルヲ為サズ是レ余ガ心
 ヲ安^シテコレヲ剖劓氏ニ附ス所以ナリ豈ニ
 敢テ自ラ推轂ノカアリト云ハニヤ聊^カ先達ノ餘

瀝ヲ嘗ルノミ

明治七年四月

小川爲治識



學問之法總目錄

第一冊

第一編

學問ノ要旨ヲ論ス

學問ハ人ニ必要ナル事

普通學ノ大意

法學ノ大意并ニ列國法

學ノ大意

物理學ノ大意

化學ノ大意

第二冊

第二編 目的ヲ確立シテ勉強スベキヲ

論ス

目的ヲ立定ル事

順序ヲ立テ、勉強スベキ説

剛毅ニシテ勞苦艱難ニ耐ベキ事

學者ハ必ズ勤勉ナルヲ要ズ

光陰ヲ貴重スベキ事

學者必ズ夙達ヲ望ムベカラズ

第三編 注意及ビ觀察ノヲ論ズ

注意ノ理

注意ノ益

注意ノ方法

觀察ノ説

第三冊

第四編 實事經驗ノヲ論ズ

人恒ニ學習スル所ヲ以テ實際ニ徴スベ

レ

人讀書ノミヲ以テ學問ト思フベカテズ

第五編 思想ノヲ論ズ

思想ノ理

思想ノ益

思想ノ方法

第六編 討論ノ方法

討論ノ理

討論ノ益

討論ノ方法

第七編 讀書ノ方法ヲ論ズ

讀書ノ樂

目的ヲ立テ定テ書ヲ讀ムコトヲ要ス

讀書ハ精熟ヲ貴ムノ說

善良ナル書籍ヲ擇ムベキ說

稗官小説ノ害

餘カヲ以テ新聞紙ノ類ヲ讀ムベキ說

無用ノ書ヲ求ルコトヲ戒ム

讀書會通ノ法

讀書ニ定限ヲ立ルノ事

暗記ヲ習フノ說

書ヲ省ルニ界限節次ヲ立ル事

熟看ノ方法

抄寫筆録ノ益

會讀ノ益

讀書宜シク虚心ヲ以テ體認スヘキ說

第四冊

第八編 學者ノ自ラ修ル所以ヲ論ズ

學者自ラ教養スベキノ說

自己ヲ恭敬スベキ事

恒ニ快樂ト信實ノ心ヲ以テ業ヲ務ムベキ

事

人ハ地位職業ノ卑賤ナルヲ耻ト為スベ

カラザル說

學問ハ道德ト一體ナラシメテ要ス

學者必ズ驕矜ノ心ヲ去ルベキ說

學者宜シク生計ヲ治ルヲ以テ先トスベ

キ說

第九編 親ノ職分及ビ師ノ儀範ヲ論ズ

親ノ職分ノ由テ立ツ所ノ理

扶助ノ事

身體ノ健康ヲ教ル事

才識ヲ長クシテ教ル事

道義ヲ教ル事

親ノ通義
 師ノ職分通義ハ父母ト相異ナルヲナキ
 ノ説
 師ノ儀範

學問之法總目錄終

學問之法

小川爲治 纂輯

第一編 學問ノ要旨ヲ論ズ

一 杯ノ坭土ヲ取テコレヲ治レバ、千百金
 價スル陶器トナル、コレヲ治ザレバ、
 工ト雖モ用ニ當ラズトシテコレヲ斥ケン、人
 ノ當ニ學ブベキ何ヲ以テ是ニ異ナラン、
 諺ニ曰ク「人學バザレバ、智ナシ、智ナキヲ
 以テ愚人トスト、人ノ當ニ學ブベキ此ノ

一語ヲ以テコレヲ盡セリ、爰ニ人ノ學ヲ
 為ス所以ト、諸學科ノ大意ト、ヲ條列シテ、
 學者ヲシテ當ニ學ブベキ理ヲ知テ、而ノ
 適從スル所アラシメントス、
 學問ハ人ニ必要ナル事

人ノ是ノ心アルヤ、則チ必ズ是ノ身アリ、是ノ身
 アルヤ、則チ必ズ是ノ職業アリ、士農工商ノ職タ
 ル、施政、耕作、工職、商賣ノ業タルガ若キ、則チ人ニ
 ナコレアリ、コレヲ外ニシテ人アルコトナシ、マタ
 人ヲ外ニシテ此ノ數、物アルコトナシ、コレ則チ天

賦ノ職分ニシテ、人ノ人タル所以ノ道ナリ、故ニ
 人々ソノ身ヲ立テ、ソノ産ヲ治メ、ソノ業ヲ盛リニ
 シテ以テソノ生ヲ遂ケ、ソノ職ヲ盡サント欲セ
 ハ、宜シク身心ヲ修誠シ、知識ヲ開成シ、才能藝術
 ヲ長育スベシ、ソノ身心ヲ修誠シ、知識ヲ開成シ、
 才能藝術ヲ長育セント欲セハ、更ニマタ宜シク
 學ヲ為スベシ、日用常行起居言語ヨリ、親ニ事ヘ、
 婦ニ偶シ、子弟ヲ育テ、朋友ニ交ル、ミテ大學アラザ
 ルハナシ、法律、政治、培養、耕耘、工藝、技術、簿記、計算、
 凡ソ人ノ經營スル所ノモト、ミテ悉學アラザル

ハナシ、人ヨクソノ才能ニ應シ、ソノ好尚ニ從ヒ、
 勉勵シテ學ニ從事シテ、而メ後始テ産ヲ興シ、業
 ヲ昌ニシ、以テ生ヲ遂ケ、職ヲ盡スヲ得ベシ、學
 問ハ即チ身ヲ立ル財本トモ謂ベシ、人タルモノ
 誰カ學バズシテ可ナランヤ、夫、人ミナ横目豎鼻
 四支百骸ヲ具備セリ、故ニ凡ソ他人ノ能スル所
 ノモノ、何ゾ我ニ於テ成ラザルヲアランヤ、サレ
 氏一ッハ綾羅ヲ衣、瓊羞ニ饜キ、從容トシテ繡室畫
 樓ノ中ニ住居セリ、一ッハ縑縷ヲ衣、飢餓ニ迫リ、戚
 々トシテ道路街衢ノ間ニ轉迷セリ、コレニ由テ

觀レハ彼ノ為ストコロハ、此ニハ企及バザルガ
 若シ、サレ氏退テコレヲ考察スレハ、ソノ理亮然
 トシテ了解シ易シ、諺ニ曰ク「人學バザレハ、智ナ
 シ、智ナキヲ以テ愚人トス、ト、蓋シ人ノ賢愚ハ、タ
 ヲ學ヲ為スト、學ヲ為サバルト、ニ由テ生スルノ
 ミ、人ノ賢愚コレニ由テ生シナバ、ソノ富貴貧賤
 モマタコレニ由テ生ゼン、賢智ノモノハ自カラ
 富貴ナリ、愚蒙ノモノハ自カラ貧賤ナリ、コレ則
 チ宇宙一定ノ理ナリ、是ニ於テヤ向ノニツノモノ
 、由テ生スル所ノ理、渙然トシテ氷釋セン、夫、人

ノ學問ニ從事スル所以ノ趣旨ハ、則チ人ノ人タルノ道ヲ知り、人ノ人タルノ職ヲ盡シ、人ノ人タルノ生ヲ治ルニアルノミ、故ニ先ッ幼少ニシテ、小學ニ入り、普通ノ諸學科ヲ學ブトナリ、普通ノ諸學科トハ何ゾヤ、即チ書算、會話、作文、地理、歴史、究理、ノ類ノ數ノモノヲ謂フ、コノ數ノモノハ、人ヲシテ人タラシムル所以ノ具ニテ、一身ニコノ數ノモノヲ具備シテ、而メ後始テ兩脚ノ者、一箇ノ人トナルヲ得ルナリ、嘗テコレヲ聞ク天ハ富貴ヲ人ニ與ヘズシテ、コレヲツノ人ノ勤勞ニ與

ヘルト、サレハ人ハ生來ニシテ、賢愚貴賤ノ差別アルヲナシ、タゞ生テヨリ後、ヨク學問ヲ勤メ、物理ヲ知ルモノハ、賢ニシテ且、貴キ人トナリ、否ラザルモノハ、愚ニシテ且、賤キ人トナルナリ、コレニ由テ觀レハ人誰カ奮勵シテ、學問ニ努力セザラシヤ

普通學ノ大意

文字ハ何ノ為ニ習フヤ、聲音ヲ標レ、事物ヲ念レ、以テコレヲ後來ニ記セレ為ナリ、文章ハ何ノ為ニ學フヤ、言辭ヲ修メ、意想ヲ寫シ、以テコレヲ四

方ニ達セン為メナリ、サレハコノニツノ者ノ學バ
ザレバ、彼我ノ意、徹シ難ク、遠邇ノ情、通シ難シ、コ
レ則チ習字、作文、ノ教科アル所以ナリ、單語ハ何
ノ為、ニ習フヤ、甲ノ魯ト喚フモノハ、乙ノ魚ナリ、
コレヲ要スルニ、ニツナガラ俗習ノ訛言ヨリ出ヅ、
乃チ文字ノ真ヲ以テ、コレヲ訂正センガ為ナリ、
會話ハ何ノ為、ニ學ブヤ、音聲アリテ、ソノ意想ヲ
發シ、言語アリテ、ソノ情志ヲ盡スト雖、オモヒ風土ニ
ヨリテ、ソノ調ヲ異ニシ、ココロ慣習ニヨリテ、ソノ辭ヲ
別ニス、コレヲ要スルニ、我行ト謂フ、彼ハ留ルト、

解セリ、乃チ文章ノ正ヲ以テ、コレヲ均定セシガ
為ナリ、サレハコノニツノ者ヲ學バザレバ、一國ノ
中ナホ且、東西ノ言語、情意、通達シ難ク、コレ則チ
單語、會話、ノ教科アル所以ナリ、凡ソ文字ヲ讀ム
ハ、ソノ意味ヲ了解スルニアリ、モレ徒ラニ朗讀
吟誦シテ、ソノ意味ヲ了解スルヲ能ハザレバ、マ
タ何ノ益カアラレ、コレ則チ讀書ノ教科アル所
以ナリ、衣、食、住、ノ三ツノ者ハ、人生ノ一日モ缺クベ
カラザル所ニシテ、而メコノ三ツノ者ノ資ハ三ナ
我營生ノ力ニ由テ生スルナリ、故ニソノ資ヲ出
ヨライトス

ス、マタ必ズ當然ノ道ニ從^ガハザルベカラズ、日用ノ諸品、悉ク我獨^リ己ノカヲ以テ、作ル^テ能ハズ、故ニ我製造スル所ノ物ヲ以テ他人ニ予ヘ、コレト貿易ノ便ヲ謀テ、而メ後^モ百般ノ需用ヲ達スベシ、ソノ資ヲ出スニ當然ノ道ヲ知リ、而メ他人ト貿易ノ便ヲ謀ラント欲セバ、宜シクソノ利害得失ヲ考察スベシ、ソノ利害得失ヲ考察スルハ、三ナ^ク比^シ較^ス算^シ計^スニアリ、コレ則チ數學ノ教科アル所以ナリ、父子親アリ、君臣義アリ、夫婦タル、兄弟タル、朋友タル、三ナ各、當然ノ倫理アリ、苟モソノ道ヲ

知ルニ非レバ、或ハ情ニ悖リ、義ニ背キ、竟ニ^テ兇惡ノ人トナラン、コレ則チ修身學ノ設アル所以ナリ、保護ヲ受ケ、教育ヲ蒙リ、貢租ヲ納^ル、^テ軍旅ニ服シ、願^シ請^フヲ為ス、國ニナ各、ソノ風ヲ異ニス、苟モソノ國ニ生レテソノ國風ヲ知ルニ非レバ、或ハ理ニ違ヒ、法ニ戾リ、竟ニ罪惡ノ人トナラン、コレ則チ國體學ノ設アル所以ナリ、理アリテ、コトニ物アリ、物アリテ、コトニ用アリ、苟モソノ用ヲ知テ、ソノ物ヲ知ラザレバ、用勝テ為スベカラズ、苟モソノ物ヲ知テ、ソノ理ヲ知ラザレバ、物勝テ成ス

ベカラズ、今始テ汽車、電機、街燈、寫眞ノ類ヲ見レ
 バ、驚キ且怪マザルモノ少シ、コレソノ理ヲ究知セバ、
 セザルニ由ルナリ、苟モソノ理ヲ究知セント欲
 セバ、則チ物理學ニ由ラズンバアル可ラズ、地球
 ノ形体、經緯ノ區畫、萬國ノ位置氣候、我國ノ高山、
 大川、海港、州郡ノ配列ニ至ルマデ、ミナ悉ク人ノ
 知ラザルベカラザル所ナリ、苟モコレヲ知ラン
 ト欲セバ、則チ地理學ニ由ラズンバアル可ラズ、
 天地ノ剖判、人類ノ繁殖、我國歷代ノ制度文物、地
 球上萬國ノ治亂興亡、地理、沿革ニ至ルマデ、ミナ

悉ク人ノ知ラザルベカラザル所ナリ、苟モコレ
 ラ知ラント欲セバ、則チ歴史學ニ由ラズンバア
 ル可ラズ、心意、軀殼ノ安康壯健ヲ保ツニ非レバ
 學藝事業、何ヲ以テソノ功勳ヲ成ン、コレ則チ生
 理ノ法ヲ講スル所以ナリ、方圓曲直ノ規矩準繩
 ヲ盡スニ非レバ、家屋器械、何ヲ以テソノ模範ヲ
 造ラン、コレ則チ素繪ノ事ヲ習フ所以ナリ、凡ソ
 此等ノ事、容易ニソノ間與極域ニ詣ルベキニア
 ラズ、即チ一事ト雖、終身全副ノ力ヲ用イテ、而
 ノ後始テコレヲ窮盡シ、コレニ到着スルヲ得

ベシ、サレ氏人々ソノ概意ヲ知テ、事ニ茲ニ從ハ
ザレバ、特ニ身ヲ立テ功ヲ成ス^{アラマシ}ト能ハザルノミ
ナラズ、マタ人^シ世ノ交際ニ於テ、欠ル所アラント
ス、迺チコレヲ人ニシテ人ノ務ヲ成ス^ト能ハザ
ルモノト謂フ、故ニ此等ノ事ハ、人ノ人タルノ知
識ヲ具ヘ、人ノ人タルノ職分ヲ成ス所以ノ業ニ
シテ、貧富貴賤ノ差別ナク、必ズコレヲ學デヘキ
所以ノ理ナリ、其レコレヲ普通學ト稱スル所以
ナリ、

法學ノ大意、並ニ列國法^{即チ萬國公法}及ビ經濟學

ノ大意

往昔^{ギリキ}希臘ノ時ニハ、政治上ニ關係スル諸學ハ、總
テコレヲ國政學ト稱シタリシカ、近今ハ國法學
ト、國政學トヲ二科ニ分チ、各殊ノ學科トス、○國
法ト國政ハ、現ニ實際上ニ於テハ^{コト}混同シテ相離
ル可カラザル者ナルヲ、タゞ學科上ニ於テノミ、
コレヲ區分スルハ、甚タ異レムベキニ似タレ氏、
コノ事已ムヲ得サルヨリ出ルモノニテ、ソノ旨
趣ハ、下文ニ於テ明瞭ナラン、○國法、國政ハ、固ト
各殊ノ業事ニシテ、ソノ^ミ關涉スル所、マタ相同シ

カラズ、故ニ國家ノ治平ヲ得ル所以ノ理ヲ精究
セシニハ、先ッソノ學ヲ二科ニ分チ、一ッハ國家存在
ノ理ヲ論シ、一ッハソノ元氣活動ノ方ヲ論ス、而
各科ニ就テ、ソノ理ヲ精究セザレハ、則チ全體
理、得テ精究スベカラズ
國法学ハ、偏ニ今日國家ノカク存在シ、且、規律ノ
現存レテ、コレヲ保續スルトコロノ景狀、及び國
家ノ元氣活動ヲ生スル所以ノ本源ヲ論スルモ
ノニシテ、必竟ソノ歸ヲ要スレハ、國家ノ現ニ存
在スルトコロノ體勢ヲ講スル學ナリ、

國政學ハ、特ニ國家ノ元氣旺盛シテ活動スル所
以ヲ論スルモノニシテ、今日政ヲ施ス所以ノ目
的、及びコノ目的ヲ達シ得ベキ、措置方法、且今日
ノ景狀ニ從テ、彼此憲法ノ當否利害ヨリ、ソノ他
憲法ノ弊害ヲ刪除改正スルノ術ハ如何スベキ
等ヲ説クナリ、コレヲ要スルニ、國家ノ發力活動
スル方ヲ講スル學ナリ、
コノ故ニ法ト政トハ、即チ動靜行止ノ差違アリ、
コレヲ生物ニ譬ヘレバ、法ハナホ體軀ノ靜止ス
ルガ如ク、政ハナホ精神ノ發動スルガ如シ、法

政ノ二科ヲ以テ全ク關係セザルモノトシ、嚴ニ
 コレヲ區分スルハ甚、不可トス、國家ハ生活物ナ
 リ、國家苟モ生活セント欲セバ、ソノ體軀タル法
 精神タル政、兩ナガラヨク親一和同セズンバア
 ル可ラザル、固ヨリ論ヲ須ズ、サレバコレニ從
 事スル學者モ、マク必ズ法政ノ二科ヲ兼備セザ
 ルベカラズ、人誰カ精神アリテ、體軀ナキモノア
 ランヤ、更ニ體軀アリテ、精神ナキモノアランヤ、
 ○此等ノ論ニヨレバ、法政ノ二科ハナハダ區別
 ナキガ如シト雖、コレヲ熟思スレハ、反テソノ
 ヨクオモラ

區別ノ判然タルヲ知覺スベシ、則チ國法治革史
 ト國政治革史ノ相異ナル所以ヲ視ルベシ、國法
 治革史トハ、國家目今ノ存在ヲ得シ所以、現ニ行
 ル、制度憲法ノ由來スル所以、ソノ變遷改革ア
 リシ事跡等ニ限リテ、ソノ他ニ論及セズ、又國政
 治革史トハ、歷世ノ人君宰輔ノ賢愚明暗、及ビ施
 政ノ得失當否、或ハソノ得失當否ノタメ、臣民上
 一般ニ係ル所ノ禍福利害等、都テ國家古今ノ事
 蹟ニ就テ、論說スルモノヲ謂フ、○國法ヲ整理シ
 テ、コレヲ最モ明確ニナスモノハ、即チ憲法(國憲)

ト云フベク、又國政ニ氣カヲ與ヘテ、コレヲ著明ニナスモノハ、國家實際ノ統御術〔政令〕ト云フベシ、故ニ政ハ專ラ術ニ屬シテ、學ニ屬セズ。○法ハ政ノ基本ニシテ、政治活動ノ規律ヲ定ムルモノナリト雖モ、マタ孤立シテ、國家ノ用ヲ濟スモノニ非ルヤ必セリ、且時勢ノ變遷ニ從テ、法ニ弊害ノ生スルヲ預防シ、以テソノ時勢ニ適應スル、良法ヲ立ルハ、政ノ力ニ非レバ能ハズ、故ニ法ハ、政ヨリ、ソノ呼吸ヲ資取ルモノト云フベシ、政モシコノ呼吸ヲ與ヘルヲ能ハザレバ、法ハ恰モ死體

ニ異ナラズ、○政マタ然リ、政ハ時勢ノ變遷ニ從テ、ソノ適宜ノ治ヲ為スモノナリト雖モ、コレ法ノ以テコレガ限制ヲ為スニ非レバ、ソノ弊ヤ苛酷暴虐ニ陥テ、竟ニ國家ノ敗亡ヲ醸ス。必然ナリ、○以上ノ諸論ヲ參通スレバ、國法学ト國政學トハ、恒ニ國家ノ上ニ在リテ、須臾モ離ルベカラザルモノナリ、故ニコノ二科ノ學ヲ總稱シテ、マタ當ニ國家學ト謂フベシ、○夫、國家學ヲ論究スル所以ノ本旨ハ、專ラ古今萬國ノ變遷沿革ヲ標示センガタメニハ、非ラス、況ク今時ニ適應スル所

ノ國法ヲ論究シテ、コレヲ施行セシムルヲ欲スルナリ、故ニ古今歷世ノ國體法制ヲ論究スルハ、タゞ專ラ今日ノ參考ニ備ヘ、以テ古今ノ沿革ヲ視テ、目今ノ進歩ヲ知得スルニアルノミ、
國法學ニ於テ論スル所、コレヲ分派シテ二大別トス、甲ヲ國法ト曰フ、乙ヲ民法ト曰フ、國法マタ分チテ二ツトス、第一ヲ憲法一ニ國ト曰フ、第二ヲ刑法ト曰フ、民法マタ分チテ三ツトナス、第一ヲ民法一ニ私ト曰フ、第二ヲ商法ト曰フ、第三ヲ訴訟法ト曰フ、是ナリ、

甲第一 憲法 トハ、ソノ根據ヲ國家ニ資ルモノニシテ、國家ト民人トノ間ノ公權利公義務ヨリ、國ノ各大權ノ由テ立ツ所、及ビ國法ヲ以テ定メタル各大權相互ノ關係ヲ論ズルモノナリ
甲第二 刑法 トハ、國家ノ法律上ニテ制禁スル所ヲ犯シ、以テ國家全體ノ安寧ヲ毀チ秩序ヲ紊ルモノヲ處置スベキ、刑罰ヲ定メ、及ビソノ罪人ヲ罰スルニ就キテ施行スベキ、諸般ノ手續ヲ論スルモノナリ、
乙第一 民法 トハ、人間ノ稟賦性情ウマニツキコ、ロ性所謂ニ資

リテ、民人ノ私權利ヲ定メ、以テ民人相互ニ關係
交通スル法ヲ論ズルモノナリ、固ヨリ國家ト民
人トノ關係ヲ論ズルモノニアラズ、

乙第二 商法 トハ、商業ヲ營ムモノ、及ビ商業

ニ干ル條件ノ規則界限ヲ定ムル法ナリ、蓋シ民

法ハアラン限リノ人ニ通用シ、商法ハタゞ商業ヲ

營ムモノ、上ニノ關係スルナリ、

乙第三 訴訟法 トハ、民人ノソノ權利ヲ侵害

セラレントスル時、コレヲ開伸シ、官府ノ力ニ倚
テ、ソノ權利ノ保護安寧ヲ謀ルナリ、論ズルモノ

ナリ
コノ他列國法（即チ萬國公法）及ヒ經濟學ノ二學科アリ、

列國法ノ大意

列國法トハ、列國相關係スルトコロノ規律ヲ定

ムルモノニシテ、ソノ干涉スル所、僅ニ一國ノ上

ニノミ止マラズ、○衆人ノ同安ズル所ノモノ、人

指シテ以テ善トナス、而メ一人ノ獨樂ム所ノモ

人、則チ名テ惡トナス、天下ノ人、固ニソノ樂ム所

ニ即テコレヲ行ントス、孰カ知ンカノ一人ノ獨
樂ハ、衆人ノ同安スル所ニ勝、下能ハザルヲ、是レ

則チ善惡ノ辨アル所以ニシテ、列國法ノ由テ生ズル所ナリ、○古ヨリ未ダ萬國ノ法度ヲ制スル君主ナシ、未ダ萬國ノ訴訟ヲ斷サダムル君主ナシ、未ダ萬國ノ民人ヲ統治スル君主ナシ、而メ萬國通行ノ列國法ト云フモノアリ、列國法ト云フモノハ、其レ何ニ由テ生ズルヤ、曰ク天下ノ公議ニ由テ生ズ、天下ノ公議ト云フモノハ、マタ何ニ憑ヨリテ生ズルヤ、曰ク天然ノ義法ニ憑テ生ズ、然ハ則チコノ天然ノ義法ヲ推究ハミムルハ、コノ學ヲ修ムルニ就キ最要ナルヲカ、曰ク然リ、タゞ古今ノ學者一人ニ

非ラズ、故ニコノ義法ノ辨論ニ至リテモ、マタ各説同異ナキヲ能ハズ、則チヨクソノ真偽ヲ查覈ケンシテ、ソノ純粹ナルヲ擇取ルヲ以テ緊要ナリトス、○列國ノ相關係スルハ、ナホ國內各民ノ相關係スルトソノ理同一ナルガ如シ、サレバ其ノ際ニ行ハル、所ノ法ハ、決シテ國內ノ私法ヲ推廣メテ、直チニ列國ノ際ニ及ボシタルモノニハアラズ抑、コノ法タルヤ、宇内ノ人類ヲ一體ト視做シテ、萬國ノ全體ニ及ボスベキモノナルガユニ、ソノ理ニ至リテハ、タゞニ國法ノ國家全體ニ關涉

スルガ如キノミナラズ、更ニ大ナル公權ヲ定ムルモノト謂フベシ、○モレ宇内萬國ヲ統一スルトコロノ大政府アリテ、萬國ノ普ク遵奉スベキ、憲法律令ヲ制定セバ、列國法ト云ルモノハ、乃チ變レテ宇内國法ト為ルベシ、サレバ未ダ嘗テ此ノ如キ大政府大憲法アラズ、故ニ列國法未ダ實ニ十全完備ノ地位ニ至ラザルナリ○是ノ故ニ今世ニアリテハ、國法ハ既ニ十全完備ノモノト稱スベク、列國法ハ未ダ十全完備セザルモノトシテソノ別ヲ立テ、以テ國法學ニ於テハ、國家ヲ

一個ノ公體ト視做レテ其ノ法ヲ論シ、而メ列國相關係スル所ノ法ノ如キハ、姑クコレヲ列國法ノ學ニ讓ラザルヲ得ズ、

經濟學ノ大意

經濟學トハ造化定成ノ法則ニ從ヒ、人間衣食住ノ需用ヲ足シ、以テ財ノ殖オキテヤシ、富ヲ増シ、人ヲシテソノ歡娛快樂ヲ享ケシムル所以ノ理ヲ講ズル學ナリ、世ノ學者、經濟學ヲ以テ偏ニ財ヲ殖ヤシ富ヲ増スモノトノ三思ヒ、或ハ富ヲ致シテ、コレヲ守ル所以ノ趣意ナリト思フハ、マタ大ナル

謬見ト謂フベシ、抑、經濟學ノ趣意ハ、人ノ作業ヲ束縛フルヲナク、ヨク其ノ天稟ニ從ヒ、自由ニソノ力ヲ伸ベシムルニアリ、故ニソノ議論毫モ人間交際ノ事ニ度ルヲナク、タゞ人間自由ノ職業ヲ抑制スルキハ、必ズ不測ノ弊害ヲ生ズル所以ヲ説明セリ○往昔「アダム、スミツ」ガ額「ラスゴ」ノ大學校ニ於テ、コノ學ヲ講説セシキハ、ナホ未ダ性理學ノ一派ノ如クナリキ、其ノ後、世ニ公行セラレシ、富國論ト云ル書中ニ載ル所モ、始ハ口門弟子ニ授ケテ、性理學ヲ講ズル手續ハ一ツトセラ

レタルヲナリ性理學ヲ講ズルニ四ツノ順序アリ、初、バ自然神學ト謂フ、即チ自然ノ理ニ證明シテ、神明ノ徳ヲ知ルモノ、次、ハ修身學ト謂フ、即チ「ベ」レ「レ」ガ所謂「人」ノ當ニ行フベキ務ト其ノ道理トヲ講ズルモノ、又次ヲバ法律學ト謂フ、即チ理ノ當否ヲ裁決スルヲ教ルモノ、再次ヲバ民類ノ法ト謂フ、即チ人間ノ便利ニ基キ、以テ國ヲ富シ兵ヲ強クスルヲ旨トシテ論ズルノ科コレナリ、末ニ謂經濟學ノ蓋レ是ノ項ハ學文未ダ蒙昧ニ屬スルノ時世ナルガエエニ、此ノ學科モマタ

カク混淆^{イリミヤ}レテ在リレナルベシ、サレバ人ノ當ニ
 行フベキ務ト、人ノ便利ニナル事トハ、全相異ナ
 ルモノナリ、則チ經濟學ヲ以テ、性理學ノ一派ト
 為ス可ラザルヲマク論ヲ待ズ抑、性理學ノ根本
 トナセル、止^ムテ得スレテナスト云、意ト、經濟學
 ノ基礎トナセル、直^ニテ比^スフル^ニ本^ニ復生^スレテ必^ズス
 利^ト得^ル事^ヲ謂^フニ^テ萬^事タ^ト云^旨トハ、全^ク逕
 有益^ノ事^ヲ求^ルヲ謂^フナリ^ト云^旨トハ、全^ク逕
 庭^{アリ}、性理學ノ本義ヲ言^ハ、為^スベキ理、經濟學
 ノ要旨ヲ言^ハ、直^ニテ比^スブルト謂^フニ^テ盡^セリ、蓋
 レ經濟學ニテハ、必ズ為^サズンバアル可ラズト

太^ク行^フヲ責^ムルヲナク、タ^ク便利要用トイフコトニ
 三、恒ニ注意セリ、サレバコレマタ自^ラカラ一科ノ
 學問ニテ、即チ勤^ク勞^ク節^ク儉^クヲ本トシ、而^{シテ}メソノ穿鑿
 フ為^シ、以^テソノ善^ク惡^クヲ定^ムルヲナレバ、更ニ性
 理學ノ法度ニハ拘^ハ泥^セザルヲナリ、マ^ッコ^ルル^コト
 曰^ク經濟トハ、物^ヲ産^シ、物^ヲ製^シ、物^ヲ積^ミ、物^ヲ
 散^シ、物^ヲ費^スニ、其^ノ紀^律ヲ設^ケル所以ノ學文ニ
 テ、即チソノ物トハ、或ハ必用ナルモノアリ、或ハ
 便利ナルモノアリ、或ハ人意ヲ悦^バシムルモノ
 アリ、而^{シテ}メ何^レモ賣^買シテ^ハ値^價アルモノナリト

云、凡ソ學問ヲ為ス者ハ、何等ノ學科ヲ論セ
ズ、先、預シメ其ノ學科ノ範圍ヲ知り、其ノ議論ノ
境域ヲ察スルヲ以テ緊要トスベシ、モシ然ラザ
レハ我學フ所ノ學科ニ關係セルト思フモノ
モ、書中ニ於テ絶テ其ノ議論ヲ見ルトナク、必竟
望洋ノ歎ヲ免レズ、抑、經濟學ノ主トスル所ハ、人
間需用品ノ狀態ヲ説キ、コレヲ採用スル方法ヲ
明晰ニシ、私有品ノ増減スル所以ノ理ヲ論究ス
ルノミ、蓋シ一身ノ徳ヲ明ニシ、人ニ交ルノ道ヲ
修ルガ如キハ、固ヨリ性理學ノ與知ル所ニシテ、

敢テ經濟學ノ論スル所ニアラズ、○右ノ如ク學
科ニ區別アル所以ヲ明了ニセン為、茲ニソノ例
ヲ舉、經濟學ノ論ニ曰ク、人ノ為ニ強迫サレ、已
トヲ得スレテ為ス所ノ業ハ、其ノ功粗ニシテ且、
蹶ナリ、富ヲ致スノ念ヲ以テ、自カラ奮フテ為ス
ノ業ハ、其ノ功精ニシテ且、美ナリ、故ニ賣奴ハ、以
テ甘蔗ノ田ヲ耘ルベシ、未ダ以テ時辰機ノ如キ、
精巧ナルモノヲ製スベカラズ、以テ練麥ノ穀ヲ
脱スベシ、未ダ以テ綢緞ノ如キ、美麗ナルモノヲ
織ルベカラズト、コレニ由テ考ヘレバ、經濟學ノ

論ハ、タゞ人ヲ自由ニ役シテ、上好精美ノ功ヲ成
スベキ所以ヲ説クノミ、賣奴ノ惡法ヲ誹謗シ、其
ノ天理人道ニ背ク所以ヲ辯論スルハ、固ヨリ經
濟學ノ趣旨ニアラス、又賭博ヲ以テ人間ニ益ナ
キモノトシテ、論シテ曰ク人盡日賭博ヲ為スト
雖氏、一物モ世上へ生殖スルコトナシ、タゞ金錢ヲ
得ンガ為、不良ヲ為シ、モシコレヲ得レバ、マダ放
逸懶惰ノ習ヲ長ズ、而メ其ノ金錢ハ、タゞ彼ニ損
シテ、此ニ得ルノミ、マダ何ノ益カアラン、其ノ賭
博ヲ為ス間ハ、無益ニ時間ヲ費シ、無益ニ心力ヲ

勞シ、其ノ損亡タル甚大ナリト、經濟家ノ論ハ、タ
ゞ此ノ如キニ止ルノミ、賭博ノ惡事タルヲ辯シ、
人心ノ非ヲ糾スハ、則チ性理ノ學科ニ讓テ、敢テ
コレヲ論ズルコトナシ。○今論セシ如ク、經濟學ト
他ノ學科トノ分界ヲ明了ニスルコトハ、學者ノ最
モ緊要ナルコトナリ、而メコノ分界ヲ明了ニセン
ト欲セバ經濟ノ實情ヲ知ルヲ以テ先トスベシ。
サレドコノ事初學ノ容易ニ能スベキ所以ニ非ラ
ズ、故ニ學者先下學上達鞠躬盡力シテ、而メ後漸
ク其ノ真味ヲ知り、大ニ發明スル所アルベシト

云フ、○問テ曰ク經濟學ハ何ノ為ニ研究スルヤ、
答テ曰ク造化定成ノ法則ヲ知リユレニ從カハン
ガ為ナリ、譬バ人身ハ自カラ生理ノ定則ニヨリ
テ、ヨク其ノ生ヲ保チ健康ナルヲ得ルモノナ
リ、而メ其ノ定則ハ、人ノ意匠ヲ以テ變易改カス
ベキモノニ非ラズ、サレバ人トシテ人身窮理ヲ
研究スルハ何ゾヤ、タゞ其ノ定則ヲシテ身體ノ
内ニ行、レシメ、而メ天然ヲ妨ルナク、以テ其ノ
作用ヲ逞クセンガ為ナリ、經濟學モマタ然リ、即
チ造化ノ人ヲ造リ、ユレニ衣食住ノ資ヲ賦與シ、

以テ人ヲシテ歡忻愷樂ノ福ヲ享シメントスル
所以ノ法則ヲ察シテ、其ノ勢力ヲ盛ニシ其ノ作
用ヲ逞クスルニ在ルノミ、今夫人身窮理ノ定則
ヲ了解スル者ハ、空氣ノ閉塞、汚穢ノ蒸發、不良ノ
食物等ヲ以テ、疾病ノ原因トシテコレヲ避クル
ヲ知レリ、經濟家モマタ然リ、即チ壓抑ノ政治、強
迫ノ仕役、制禁ノ貿易等ヲ以テ、貧窮ノ原因トシ
テコレヲ除クヲ知レリ、コレ則チコノ學ニ從事
シテ、ヨク造化ノ定則ヲ知ルニ由テ然ラシムル
所ナリ、但シ經濟學ハ、世ノ便利ヲ謀リ、以テ財ヲ

殖^ヤシ、富^ヲ増ス、所以ノ理ヲ論ズレバ、コレヲ實地ニ施ス處置ニ至^リテハ、政治學ノ管ル所ナリ、○今縷説スル所ニヨリテ考ヘレバ、經濟學ハ固ヨリ人為ノ法ニ非^ザルヲ明白ナリ、則チ其ノ學ノ趣旨ハ、世ニ行^ル、天然ノ定則ヲ説明^キラムルノミ、故ニ經濟ノ定則ヲ説クハ、猶^ホ察地學ニ於テ地性ヲ論シ、天文學ニ於テ日月星辰ノ經度ヲ説^クガ如シ、學者ヨク學科ノ範圍ヲ知り、議論ノ境域ヲ察シテ、而メ講究切瑳上達スルニ從^テ、愈^ニ其ノ切實ナル真理ヲ發明シ得ルベシト云フ、

嚮^キニ國政學ハ、術ニ屬シテ、學ニ屬セザルヲ論ゼリ、而メコノ術ヨリ、マタ四^ツノモノヲ現出セリ、即チ第一ヲ制法ト曰フ、第二ヲ治道ト曰フ、第三ヲ政令ト曰フ、第四ヲ理財ト曰フ、蓋シ此等ノモノハ、國法學ニ於テ論究セシモノ、實際上ニ活動スル所以ナリ、
第一 制法 トハ、國ノ制度、經濟ノ大典ト、國家民人雙方ノ諸權利諸義務、〔國法〕并ニ諸人日用往來ノ際、一切ノ諸權利諸義務、〔民法〕ノ條規ヲ定メテ、律法ト為スヲ云フ、

第二 治道 トハ、國中諸人ノ權利平安ヲ保チ、國內ノ禮序正ク、民利增長スル為ニ、國家ノ周ク心ヲ用ルヲ云フ、但シ民利ハ、國家ノ宜シク關知スベキト、關知スベカラザルトノ分界アリ、コノ分界ヲ犯スベカラズ、

第三 政令 トハ、タビ制法ノ條例ヲ實事ニ施スノミニ止ラズ、總テ國家萬機ノ出入内外國事ノ執行ヲ云フ、

第四 理財 トハ、國家財用ノ經理ニテ、國家私_{トリテカキ}有ノ土地、物品、歳入、歳出、國債、等ノ管轄ヲ云フ

法ト政トハ、固ヨリ相和同シテ、實際上ニ現ハレ行ルハ、キニ於テハ、毫モ分別ナキガ如シ、サレバ_トコノ學科ニ從事スルモノ、其ノ範圍ノ中ニ進入スル_トキハ、マタ自然ニコノ分別アル_トヲ見ルベシ、而メコノ分別ヲ為スニ非レバ、マタヨク其ノ精微ニ徹底スル_ト能ハズ、是レコノ分別スル_トヲ以テ緊要トスル所以ナリ、今臚列スル_ト所ノ數科ノ學、コレヲ總稱シテ法律ノ學ト云フ、學者乃チコノ數科ノ學ニ_ト決洽貫通シテ、而メ後コレヲ_ト完然タル法律學者ト謂フベシ、

物理學ノ大意

物理學トハ何ゾヤ、即チ萬物ノ理ヲ究メ、ソノ功
 用ヲ知ルノ學ナリ、物トハ何ゾヤ、即チ天地間ノ
 總^カテ體質アルモノヲ指^シテ謂フ、人獸金石ニナ物
 ナリ、凡^カテ我體外ニ在テ、吾五識ニ觸ル、モノ、三
 ナ物ニアラザルハナシ、即チ眼ノ見ルベク、耳ノ
 聞クベク、鼻ノ嗅グヘク、舌ノ味フベク、皮膚ノ觸
 知スベキモノ是レナリ、而メ聞クベクシテ、見ル
 可ラザルモノアリ、砲^カ響ノ如シ、嗅グベクシテ、見
 ル可ラザルモノアリ、花香^カノ如シ、味フベクシテ、

見ル可ラザルモノアリ、口中ノ食ノ如シ、觸ルベ
 クシテ、見ル可ラザルモノアリ、空氣ノ如シ、唯吾
 五識ノ中ヨク一識ニ觸ル、モノハ、即チ是レ物
 ナリ、凡^カソ砂塵ノ微ヨリ、山嶽ノ大ニ至ルマデ、三
 ナ其ノ長^カ廣^カ厚^カアリ、而メ極微ニシテ、目視觸知ス
 ル^カ得ザルモノニモ、三ナ其ノ長^カ廣^カ厚^カアリ、既
 ニ長^カ廣^カ厚^カアレハ、即チ是レ物ナリ、夫^レ眼ノ物ヲ見
 ルヤ、物ト眼トノ間ニ光素アリ、耳ノ聲ヲ聞クヤ、
 物ト耳トノ間ニ空氣アリ、空氣ノ分子ト光素ト
 ハ、質最小ナリト雖^レ、又體アリ、物トシテ體ヲキ

ハナシ、體トシテ用ナキハナシ、故ニ窮理學ハ、物
 體トソノ功用トヲ知ルノ學ナリ、○霹靂ライキ黯黒ノ
 夜、陰濕ノ地、或ハ墳墓ノ在ル所ニ於テ、慘然コソクタル
 青緑ノ火光ヲ見ルコトアリ、世人コレヲ謂テ、鬼火
 トナシ、コレヲ見ル者ハ、或ハ戰寒號呼シテ、殆ド
 氣ヲ失ントスルモノアリ、殊ニ知ラズコノ物ハ
 コレヲ燐光ト名テ、腐尸霉葉ノ日熱ノ蒸濕ヲ受
 ケ、化腐シテ氣トナリ、而シテ此ノ如キ火光ヲ現ス
 コトヲ、コレヲ例スルニ汚穢塵芥ヲ累積スレバ、或
 ハ自カラ火ヲ發シテ、焚燒スルコトアリ、即チマタ

コノ理ニ外ナラズ、天氣清朗ノ日、海濱ノ地ニ於
 テハ、城郭樓臺村落山川ノ幻影ヲ見ルコトアリ、世
 人コレヲ海市ト謂ヒ、以テ蜃蛤ノ氣ノ為ス所ト
 ナス、殊ニ知ラズ濕氣空ニ凝リ、日光返照シテ、而
 メ此ノ如キ幻影ヲ現ハスコトヲ、蓋シ何ヲ以テコレ
 ヲ知ルト云ハバ、其ノ映スル所ノモノ、必ズソノ
 對岸モシクハ近傍ノ土地ノ景色ナルガ故ナリ、
 コノ他汽車、電氣、氣球、寫真、ノ類モ、始テコレヲ見
 聞スレバ、喪膽恐怖シテ、怪且妖ト謂ハザルモノ
 少ナシ、コレ各其ノ當然ノ理アリテ、存スルコトヲ知

ラザレバナリ、モシ此等ノ人、ソノ惑ヲ解キ、疑ヲ
決セント思ハゞ、則チ窮理學ニ從事セザル可ラ
ズ、
凡ソ物アレバ、必ズ其ノ大サアリ、モシコレナケ
レハ、空處ヲ填塞スルヲ得ズ、コレニ觸ル、モ、
復知覺スルヲ得ズ、故ニ砂粒ヨリ小ナル千萬
倍ナルモ、マタ尚其ノ大サト抗力アリ、コノ二性
アルモノヲ體ト云フ、大山モ體アリ、空氣花香モ
マク體アリ、モシコノ二性ナケレバ、何ヲ以テ五
識ニ感ゼンヤ、物必ズ物ト感ズルハ、自然ノ理ナ

リ、光ト温トノ如キ、微細ニシテ秤量ス可ラザル
モノト雖、凡ナホヨク體アリテ、物ニ感ズ、茲ニ石
アリ、其ノ體タルヲ固ヨリ知ルベシ、コレヲ細末
ニスレバ、長、廣、厚、已ニ見ルベカラズ、サレバ顯微
鏡ヲ以テコレヲ照ラセバ、長、廣、厚、マタ存セリ、コ
レヲ推シテコレヲ考ヘレバ、コノ一細粉末マタ
更ニ千萬分スルモ、尚其ノ大サアリ、モシ細分子
ハ大サナシト云ハゞ、コレヲ積ムト雖、凡、大ヲ為
スノ理ナシ
凡ソ體ヲ論ズルニハ、其ノ性ヲ知ランヲ要ス、

體性各異ナルヲ、ナホ砂糖ハ甘ク、醋ハ酸ク、氷ハ
冷ニ、火ハ熱ナルガ如シ、萬物具有スル性ヲ真性
ト名ヅク、幾許大ナルモノモ、幾許小キモノモ、都テ長
短厚薄廣狹アルノ外、更ニマタ六真性アリ、曰ク
定形、曰ク碍性、曰ク分性、曰ク氣孔、曰ク動靜、曰ク
引力、是レナリ、今コレヲ水ノ一物ニ就テ論ゼン、
水ハ圓キ分子ノ聚合ニシテ、流動ノ體ヲ具ヘ、ヨ
ク方圓ノ器ニ從テ、其ノ形ヲ現ハス、コレヲ水ノ定
形ト謂フ、又底ノアル筒ニ水ヲ容レ、其ノ筒ニ適
給スル木棍ヲ以テ、強く壓バ、其ノ筒破碎スレバ、
多等

木棍ハ入ラズ、コレ其ノ實質ニ碍拒ノ性アルニ
因ル、コレヲ水ノ碍性ト謂フ、又物體ヲ分析スル
ハ、必ズ氣孔ヨリス、已ニ分析ス可ラザルニ至テ、
コレヲ分子ト云フ、又實質ト云フ、即チ氣孔ナキ
モノナリ、是ノ分子ハ、至細至微ノ小球ニシテ、精
巧ナル顯微鏡ト雖モ、マタ視ルヲ能ハズ、而メ一
勺ノ水モ、一滴ヅ、消滴スベテ、一滴ノ水モ、針尖
ニテ點スレハ、幾百分ニモ分タルベシ、コレ其ノ
實質ニ分析スベキ性アルニ因ル、コレヲ水ノ分
性ト謂フ、細小ノ分子集合シテ、一體ノ物トナル

其ノ分子間ニ氣孔ノアラザルヲナシ、今一杯ノ水ヲ以テ、他ノ水ヘ注ゲバ、忽チ滲透シテ、混和スルヲ見ル、コレ水ニ氣孔アルノ證顯ナリ、物體ハ自カラ動クモノナシ、其ノ動クヤ、必ず他物ノコレヲ助ケ動カスニヨル、其ノ動カスモノ、コレヲ見ルヲ得ベキアリ、或ハ得ベカラザルアリ、而メ見ルヲ得ベキト、見ルヲ得ベカラザルトヲ論ゼズ、總テコノ機ヲ為スモノヲ動力ト名ク、諸體ニナコノ力アリテ、其ノ靜ナルユエンノ物ト相抗シ、動ヨク靜ニ勝テバ、則チ動ク、モシ此力

ナキ片ハ、兩間ノ萬物ニナ死塊トナリテ、生活セズ、成長セズ、變化セズ、サルニ既ニコノ力アリテ、ヨク運動ヲナシ、而メコレヲ遏止スルモノナケレバ、マタ其ノ生活シ、成長シ、變化スル所ノモノ、ミナ化シテ死塊トナラン、譬ハ水ノ滾々トシテ奔瀉ホトバシタ地ノ低引カニツクハマスルモ、空氣、土壤、巖石ノ類ノコノ勢ヲ挫グモノナケレバ、將ニ進ンデ止ザラントス、コレ水ノ動靜ヲ他物ニ資リ、以テ其ノ用ヲ為スノ證顯ナリ、物質ハ、極メテ幻微ニシテ、名狀ス可ラズ、サルニ何ヲ以テ相接着スル

學問之類
卷之二

ヤ、鈎アリテ繫^ナガルトスルカ、否ラズンバ何ゾ相^ヒ
 共ニ繫^ツ属スルヤ、索^ナアリテ束ヌルトスルカ、否ラ
 ズンバ何ゾ相^ヒ共ニ團^カ結スルヤ、コレミナ引カヲ
 具スルニ因リテ然ルノミ、水ハ其ノ至細至微ナ
 ル小球分子ニ、同類相^ヒ聚ルノ性、所謂引カアリテ、
 互ニ凝^カ聚^マ合^リ體^テシ、遂ニヨク浩^テ々^ニ滔^ク々^クノ形^ニチ^テ現^ル
 スモノナリ、而^シテモレコノ力^ヲ止^ムルハ、其ノ質^ハ疎^ク解^ル
 シテ、或^ハ猛^ク風^ノ為^ニ飛^ビ散^ルシテ、池沼河海モ忽^チ
 空虚トナラシ、サレ^ドモ古^{ヨリ}未^ダ嘗^テ此^ノ如^キ
 事ナキハ、コレ水ニ引カアル證^ト顯^ナリ、蓋^シ此^等

ノ性ハ、タゞ水ニノミアルニ非^ラス、覆^テ載^ル潤^ルノ萬
 物、ミナコノ性質ヲ具有セザルモノナシ、即チコ
 レヲ物性ト謂フ
 凡^ソ此等ノ事ヲ知ルニ、二法アリ、一ッハ驗、一ッハ試
 ナリ、蓋^シ砂糖ノ甘ク、醋ノ酸ク、氷ノ冷ニ、火ノ熱
 ニ、水結テ氷トナルガ如キハ、自然ニ發見スル、性
 ヲ驗スルナリ、陶器、及ヒ砂糖ノ破^ク碎^クシ易キ質ヲ
 知ラシガ為^ニコレヲ擊^チ摧^クハ、自然ニ顯^レザル性
 ヲ試ムルナリ、又眼ヲ閉ヂ、机ヲ撫^テ、机ナルト
 ヲ知ルハ、皮膚ノ識^ナリ、扇ヲ以テ面ヲ煽^グハ、風

ヲ覺ユルモ、マタ皮膚ノ識ナリ、コレ扱ト氣ト抗
 カアリテ、皮膚ニ抵觸スルガ故ナリ、眼ノ物ヲ見
 ルモ、マタ物ノ光素來リテ、眼ニ觸ル、ナリ、光素ハ、
 ソノ質最モ精微ニシテ、特リ眼ニ感ズルノミ、蓋
 シ光素ノ眼ヲ刺衝スルハ、眼病モシクハ暗室ニ
 幽居スル人、偶出デ、光ヲ見ル片ハマサニ知ル
 ベシ、物ノ光線ハ、諸方ヲ射ル、ナホ燭火ノ如シ、
 眼ヨク物ヲ見ルハ、物ノ光線湊來リテ、其ノ象ヲ眼
 底ニ印シ、コレヲ刺衝スルニ因テ、眼ヨクコレヲ
 覺ユルナリ、コレヲ見ト謂フ、凡ソ手足等皮膚ヲ

以テ識ルヲ能ハザルモ、ハ、更ニ靈慧ナル眼、耳、
 鼻、舌、アリテ、コレヲ知ルヲ得ルナリ、
 夫、凡百事物日ニ見聞習慣スル片ハ、其ノ理ヲ知
 ラズト雖、モ、更ニ疑ヲ容レザルハ、何ゾヤ、初學ノ
 モノニ遇ヘバ、奇ト謂ヒ、異ト稱セザルモノナシ、
 抑尋常目前ニ見ル所ノモノ、却テ驚異スベキ
 多シト雖、モ、更ニ疑ヲ容レザルハ、何ゾヤ、初學ノ
 者須ラクヨク茲ニ注意スベシ、燈へ火ヲ點ズレハ、
 焮灼トシテ、光ヲ發ス、扇ヲ秉リテ煽ゲハ、ヒ、然ト
 シテ、風ヲ生ズ、コレ何ノ故ゾヤ、此ノ如キ易事ヲ

モ考ヘスレテ、而メ彼ノ始テ見聞スル所ノモノ
 フ以テ、奇ト謂ヒ、異ト稱ス、豈ニ笑ハザル可ンヤ、
 則チヨクコノ學ヲ知ラバ此等ノ細事ノミナラ
 ズ、天地間千萬ノ儀象、一々明亮ニシテ殘ス所ナ
 シ、

化學ノ大意

化學トハ、萬物ノ變化スル所以ヲ究ムル學ニシ
 テ總テ萬物ノ性質ト資生ノ原トヲ探リ物ヲ解
 キテ其ノ元分ヲ取出シ、元分ヲ合シテ復其ノ物
 ヲ造出ス等、分合ノ理ヲ教ルモノナリ、○化學ハ

コレヲ分チテニトス、曰ク普通化學、曰ク應用化
 學、是レナリ、普通化學ハ、諸元素相感スルノ象ト
 源ト諸體離合ノ法トヲ教フ、故ニ分離術アリ、集
 合術アリ、應用化學ハ、日常生計ニ切要ナル物件
 ヲ製スルニ、化學規則ヲ活用スルヲ教フ、故ニ諸
 般ノ別アリ、即チ理科化學、金石化學、植物化學、動
 物化學、アリテ、萬有學ノ各科ヲ佐ク、此ノ他合藥
 化學、農事化學、藝術化學、等枚舉ニ暇アラズ、應用
 化學ノ盛ニ行ルハ、普通化學ノ闡クルニ準シ、
 普通化學ノ精微ヲ致スニ從テ、應用化學ノ功用

愈大ナリ、

物變化シテ、性ヲ異ニスル者トナルハ、化學作用
ニ係^カハルナリ、鏡ハ堅剛灰白ニシテ光アリ、コレ
ヲ熾^ケバ光ヲ失ヒ、黒皮ヲ生シテ破レ易シ、コレヲ
鏡落ト云フ、又コレヲ濕氣モシクハ土中ニ置^ケバ、
黧黄トナリ碎ケテ粉トナル、コレヲ鏡鏽ト云フ
葡萄酒ノ甘味ナルモノ變シテ酒トナリ、乃チ甘
味消^エセテ、多精ノ氣味ト温暖麻醉ノ力ヲ生ズ、
酒又變ジテ醋トナリ、乃チ精氣去^リテ酸臭味ヲ
生シ、既ニ麻醉ノ効ナク、却テ清涼降氣ノ能アリ、

竈中ノ薪、燈中ノ油、燃エテ氣類ニ變シ、温ト光ト
ヲ發シテ飛散ス、動植ノ二物大氣ニ遇ヒテ受^ル
所ノ變、マタミナカクノ如シ、其ノ腐壞消滅スル
間ニ方テ、漸ク惡臭アル氣類ニ變スルモノ多シ、
物體此ノ象アレバ、屢温モシクハ火ヲ起シ、輕重、
形狀、剛柔、色澤、臭味、動靜、ノ變アリテ、以テ更ニ全
ク新性ヲ具スル者トナル、總テ此ノ象ヲ名^ケテ化
學作用ト謂フ、
又他ノ象ヤ、此ト異ナル者アリ、高ク石ヲ投^ケ上
レバ地ニ落來リ、燃鏡ヲ以テ日光ヲ受^レバ、其ノ

ノ鏡下ニ集リテ、大ニ温光ヲ生シ、鏡ハ物體ノ影
 ヲ反照シ、琴線ハ振動シテ、音聲ヲ發シ、長短緩急
 ニ從テ、ソノ音同シカラズ、總テ此ノ類ノ象ニ於
 テハ物體處ヲ移シ、一時其ノ外狀ヲ變スルノミ、
 内質更ニ變化セズ、コレヲ理學作用ト謂フ、
 普ク兩間ノ萬象ヲ觀ルニ、處トシテ化學作用、理
 學作用、アラザルハナシ、然リ而メ動植ノ二物ハ、
 其ノ生活スル間ハ生カアリテ、ヨク化學作用、理
 學作用、ヲ主宰シ、擅ニ行ハシメズ、別ニ一定則ニ從
 テ體軀ヲ成長ス、生カハ猶匠長ノゴトク、化學、理

學ノ作用ハ、猶工夫ノコトシ、生カヨク兩作用ヲ
 指麾シ、圖式ニ隨テ、各其ノ處ヲ得セシム、是ヲ以
 テ無數ノ新體、人工得テ模製スル能ハザル所ノ
 者ヲ造出ス、木糖、澱粉、脂、膠、肉、等々如シ、コレヲ有
 機體性抱合物トス、無機體ハ、一ニ廿物ト云フ、同
 成分聚合シテ以テ其ノ體ヲナス、動植モ死枯ス
 レバ生機已ニ竭キ、化學作用、理學作用、專ラ行ハル、
 此ノ二作用ハ、實ニ萬有ノ樁手ト謂フベシ、古語
 ニ曰ク土ヨリ出ヅル者ハ、ミナ復上ニ歸ルト草木
 黄落シ碎テ、黧色ノ粉トナリ、時ヲ經テ消亡セ、夕

土^{揮散}少許ヲ殘ス、コノ變ハ歲月ヲ經ル
 ニ非ザレバ、成ラズト雖^凡サレ^凡乾葉ヲ火ニ投
 スレバ、即時ニ成ル、コ、ニ成ル所ノ者、兩ナカラ
 相同クシテ、其ノ時期同カラズ、^{ヤク}焚燒スレバ急ニ
 シテ、微温ヲ以テ腐レバ緩ナルノ異アルノミ、今
 目消亡^{アタリ}ニルト見ユル者ハ、實ニ消亡セルニ非ラ
 ス、タ、其ノ變^變ア變シ、昇リテ氣中ニ在リ、後又化
 學、理學ノ作用ヲ以テ、マタ大氣ヲ出デ、土ニ反
 ル者ナリ、^{ハシラキ}
 物ノ分子ヲ分ツニ諸般ノ法アリ、打破、研磨、擦研、

到切、漉瀉、分注、除沫等ヲ器械法トス、此ノ法ヲ以
 テスレバ、同種分子ヲ得、此ノ分子ハ互ニ相同ク
 シテ、分拆セザル全體ト異ナラズ、タ、大小形容
 ノ別アルノミ、溶解、沈澱、揮發、蒸餾、升華、飛散、化灰、
 還元、結晶等ヲ化學法トス、此ノ法ヲ以テスレバ、
 異種分子ヲ得ルナリ、此ノ分子ハ、性質互ニ殊ニ
 シテ、前^キノ體ト異ナリ、譬^ハ緑礬ノ如キ、化學法ヲ
 以テコレヲ分テバ、此ノ塩ノ成分互ニ分レテ、^硫
 酸、^亞酸化鐵ノ二物トナル、コレヲ^解割スト謂フ、
 此ノ異種分ヲ合スルヲ集合ト謂フ、又同種分モ

シクハ異種分ヲ合スルニ、結ビテ新體ヲナサス、
 タゞ混淆スルノミナレバ、積聚ト云ヒ、又合雜ト
 云フ、一物ヲ分析シ、得ル所ノ分子、本體中ニ在ル
 キト變ゼザレバ、コレヲ「エヂエクテン」ト云ヒ、別ニ
 物ノテ形ヲナセバ、コレヲ「フロヂエクテン」ト云フ、
 水實ヲ搾リテ採ル所ノ油ハ、「エヂエクテン」ニレテ、
 油ヲ餾シテ得ル所ノ成油氣ハ、「フロヂエクテン」ナ
 リ、異種分ハ、一ニ近成分ト名ヅク、消石ノ如キ、消酸
 木、^{ホト}林篤^{アス}亞斯、ハ近成分ニレテ、窒素、^{セシ}酸素、^{ボト}朴篤^{アス}過^イ叟
 母、ハ遠成分ナリ、遠成分ハ、更ニ析チテ、異種分ト

トナスベカラズ、コレヲ元素、又ハ單純物ト謂フ、
 元素ニ三別アリ、其ノ一ヲ無量物トス、光素、温素、
 越歷素ノ類是レナリ、其ノ二ヲ非金屬トス、酸素、
 水素、窒素ノ類是レナリ、其ノ三ヲ金屬トス、金銀、
 銅、鐵ノ類是レナリ、
 同種分結合スルカヲ引カト云ヒ、又集合親和ト
 云フ、同種分子此ノカアリテ、以テ互ニ相觸レ相
 引キ集リテ全體ヲナス、モシ此ノカヨリ強キ者
 アレバ、コレヲ制シテ附着スル能ハザラシム、諸
 體コノカヲ有スルヲ各同カラズ、其ノ性ト温ト

因テ強弱アリ、温増セバ、則チ引カ減ズ、無量流
動物ハ、張力強盛ナルヲ以テ引カ最モ弱ク、可量
氣狀體ハ、稍強ク、固形體ハ、最モ強シ、諸物^{カタクモ}鞏^キ硬
柔アルハ、此ノカヨリ起ル所ナリ、滴流體ノ集合
力ハ、其ノ質ノ濃淡ニ係^{コキウキ}カル、流體變シテ凝體ト
ナリ、以テ正晶ヲ結^{コキウキ}ズ、コレヲ碎^クハ一定ノ形アリ、
是レマタ此ノカニ係^{コキウキ}カルナリ
異種分互ニ交結スルカアリ、錢一兩ヲ取り、コレ
ヲ燒キテ厚皮ヲ生ズルニ至リ、コレヲ秤^ハレハ重
量増加ス、故ニ秤量スベキ物、大氣ヨリ出テ、此

ニ加ハリタルノ知ル、コノ物ハ、氣類ニシテ酸素
ト名^{ヅク}ク、錢ト合シテ硬固トナルト雖^モ、化學作用
ヲ以テ、コレヲ氣形ニ復スルヲ得ベシ、錢落ヲ取
テ、久ク濕氣中ニ置^バ、漸ク變レテ鏽トナリ、其ノ
重^サ更ニ増ス、是レマタ水ト酸素少^ク許^サトヲ大氣ヨ
リ引^キテ、コレト結合シタルナリ、故ニ錢落ハ、鏽
ト酸素トニ成リ、鏽鏽ハ、錢、酸素、水ノ三品密合シ
テ、化學法ヲ以テ抱和スルヲ知ル、此ノ抱合ノ源
並ニ總テ諸變化ノ因ヲ明ニスルニハ、一箇ノ本
力ヲ立テ、コレヲ化學引カ、マタ親和カト名^{ヅク}ク、諸

體相合スル性アルヲ謂テ、此、彼ノ親和力アリト云フ、鉄ハ熾熱スレバ、大氣ノ酸素ト親和力アリ、尋常ノ温度ニハ、尚、又、大氣ノ水ト親和力アリト、云フノ類ナリ、黄金ハ熾熱スルモ、濕氣中ニ置テ、色量共ニ變セズ、故ニ黄金ハ、酸素トモ、水トモ、更ニ親和スル力ナキヲ知ル、親和力ハ、元分互ニ竄透スルカニシテ、互ニヨク飽和スルニ至ル、其ノ機カヲ行フ、己ニ飽和ノ極ニ至レバ、ソノ成分共ニ本性ヲ失フ、コレヲ謂テ中和スト云フ、譬ハ、^{ヒカ}消酸ニ、^{ボット}朴篤亜斯、少許ヲ

加ヘレバ、消酸ナホ勝ツ、故ニ酸性尚存ス、漸々多ク朴篤亜斯ヲ加ヘレバ、酸性次第ニ減ジ、終ニ知ル可ラザルニ至ル、コレ即チ消石ニシテ、酸性モ羅屈性モマタ知ル可ラズ、コレヲ中和塩ト云フナリ、總テカハ、目視ル可ラズ、手把ル可ラザル者ノ名ニシテ、タビ起ル所ノ作用ヲ以テ、是レアルヲ知ルノミ、譬ハ、^{ハタ}鉄ニ磁石カノ有無ヲ知ラント欲セバ、コレヲ鐵ニ接シテ引クト、否トヲ試ルガ如シ、^{ホト}化學力ヲ試ルモマタ此ト同ジ、試ハ、猶問ノゴト

久、象ハ、猶答ノゴトシ象トハ、人ノ神識ヲ以テ知
覺スル者ヲ云フナリ、鍊ト黄金ニ對シテ、酸素ト
親和スルヤ、否、ヲ問ヘバ、鍊落ニ變シタル鍊ハ、然
リト答ヘ、變化セザル黄金ハ、否ト答ヘタリト謂
フベシ、化學上一テ、物體ノ性ト變トヲ知ルハ、ナ
ホ語學上ニテ字ヲ知ルガ如シ、ヨク此字ヲ學知
センニハ、コレヲ綴リテ、句ヲ成スヲ務ルヲ初學ノ
肝要トナス、是レ化學ニ從事スル者ノ、宜シク着
目スベキ所ニシテ、即チ試方ノ危難ナク、大費ナ
ク、施シ易キモノヲ取テ、以テヨク化學ノ法ヲ暗

記スルヲ必要トスルナリ、
化學家、問ヲ設ルニ四款アリ、
第一款、物ハ、美ノ處ヨリ生スルカ○茲ニ一片
ノ骨アリ、コレヲ火中ニ置、如何、曰ク白、シテ、輕
疎トナル、^骨モシ骨ヲ坩内ニ入レ密封シテ燒ケ
バ、如何、曰ク輕クシテ黑色トナル、^骨又骨ヲ沸湯
モシクハ水蒸氣ニ中ッレバ、如何、曰ク輕クナリテ
白色ヲ存シ、^膠ハ、水ニ溶解ス、骨ヲ鹽酸ニ入レバ、
如何、曰ク透明トナリ、骨土溶解シ、軟骨體殘ル、水
ヲ加ヘテ、^骨體ヲ煮レバ膠トナル、コノ膠ヲ火

ニ入ルレバ、如何、密封スル坩内ニハ、炭トナリ、開故
 セル坩内ニハ、燃エテ飛散ス、是ニ於テ骨ハ、不可
 燃ノ土ト、可燃ノ膠、ヲ含ムヲ知リ、且骨霜ハ、炭ト
 ナリタル膠ヲ交ヘテ、黒ク、膠ハヨク水ニ溶ケ、塩
 酸ニ溶ケザル等ヲ知ル、○膠ト骨土、ヲ骨ノ迄成
 分ト名ク、又次ニ化學作用ニ遇ヘバ、更ニ分解シ
 テ、單元素トナル、骨土ニハ、磷素、加ル九母、酸素、ア
 リ、膠ニハ、酸、水、炭、窒ノ四元素アリ、更ニコノ諸元
 素ヲ分析スル法ハ、未ダ嘗テコレアルヲ知ラズ、
 是レ所謂元素ニシテ、方今知ル所ノ元素六十種

ヨリ多クシテ、年々増加ス、○集合體、分レテ單體
 トナルヲ分離ト謂フ、
 第二款 甲體、乙體ニ觸レバ、變化スル、如何、○磷
 素、大氣ニ觸レバ、光ヲ發シ、變シテ酸液トナル、コ
 レ磷素、大氣中ノ酸素ト合スルモノニシテ、鏡落
 ヲ生ズルト、其ノ理相異ナルヲナシ、^{モニルヒ}燃火ヲ以テ
 磷素ヲ温レバ、マタ此、酸物ヲナス、サレバ前品ト
 同シカラズ、此、酸物ヲ加ル基ニ觸レシムレバ、更ニ
 新物ヲ生ズ、大ニ骨土ニ似タリ、人工骨土是ナリ、
 諸元素相合シテ成ル所ノ新體、其ノ數窮リナシ、

是レ即チ集合ナリ

第三款 一試ヨリ得ル所ノ者ヲ取テ、コレヲ他
 事ニ施行セバ、何ノ用アルカ、○化學家ハ、古今ノ
 方法ヲ以テ新體新性ヲ見出セバ、コレヲ醫家、藥
 舗、農民、居家術家、專匠家、手藝家、ニ傳ヘテ以テ其
 ノ利ヲ得セシム、磷素ハ僅ニ温^レバ自^{オカ}ラ燃ユ、故
 ニコレヲ以テ擦硫柳ヲ製シ、胃ニ入レバ毒アリ、
 故ニ方今多ク殺鼠藥トナス、穀類ニ、骨土、並ニ膠
 ノ成分アルヲ見テ、化學家ハ、碎骨ノ穀類ヲ肥ヤ
 ス、功力アルヲ察シ、農民大ニコレヲ實驗シテ、以

テ其ノ證ヲ取ル、骨霜ハ液中ニ溶解スル者ヲ吸
 ヒテ、抱合スル性アルヲ知リ、コレヲ以テ汚水ヲ
 淨^キクシテ飲用ス可ラシメ、砂糖專匠ハ、コレヲ用^キテ、
 黧^{アタ}赭^ク色ナル舍利^レ別^トヲ白^シ、火酒家ハ、コレヲ用^キテ、
 以テ弗^ア設^セ耳^ル油多キ焼酒ヲ清潔ニス、是レ即チ應
 用化學ナリ、

第四款 化學變化ノ原ハ、如何、又何法ニ從テ成
 ルカ、○天秤ヲ以テ、法ノ如ク物體ヲ衡^ハリ、甲乙二
 品幾^ク何^ク合^シテ、丙品ヲナスヲ知リ、推^シテ他物ニ
 及^バセバ、各體抱合スルニ、皆必ズ一定ノ重量アリ

テ、彼ハ大ニ此ハ小ニシテ、常ニ誤ル^ルトナシ、コレ
ヲ天然ノ法則ト名^クク、化學家、施術ノ準繩トナル、
須臾^レモ放過^ススベカラズ、化學作用中間答^ノ正否
ヲ決スルハ、一ツニ此法ニ依ルナリ
化學ノ原名「ケニストリ」ハ本蘊秘學ノ義ニシ
テ天機ヲ隔ラスノ意ニ取ル、蓋シ日用百般ノ諸
技一モ此學ヲ假^ラサルモノナシ、酒ヲ釀シ麩餅ヲ
製シ、皮ヲ鞣シ、布帛ヲ染ル、三ナ此學ニ依ラザル
モノナシ、鑛石ヲ鍛練シテ、精金ヲ取り、草木ヲ調
和シテ、藥品ヲ得ル、三ナ此作用ニ干^ラザルハナ

レ、石炭ヨリ瓦斯ヲ得テ、街衢燈火ノ用ヲ為シ、汚
物ヨリ消石ヲ得テ、軍陣塵敵ノ功ヲ奏ス、三ナ是
レ化學ノ力ナリ、草木ノ青葱タル、百花ノ爛漫タ
ル、三ナ是レ化學ノ作用ニ關ス、故ニ此等ノ作用
ヲ節度シ、其ノ宜ニ適セシムルハ、固ヨリ農家ノ
子弟ノ學ブ所ナリ、食物ノ胃中ニ入り、化シテ、血
液、筋骨、脂毛トナルモ、マタ化學ノ作用ニ關ス、故
ニ此等ノ作用ヲ學知セバ、飲食ヲ節シテ、身体ノ
健康ヲ得ベシ、サレバ此學ノ日ニ闡明ナルニ從
テ、民生ノ福祉日ニ益、増殖スベシ、夫^レノ國ヲ富シ、

